

おくて／晩秋、霜の降る頃に成熟して刈り取られる、遅く実る稲のこと。11月に入り、秋の深まった中での刈り取りは、あわただしくまた忙しい。

らしく

自分らしく、
粹なくらし

CLOSE UP

音楽で 笑顔あふれる まちづくり



広島合唱同好会
設立65年の合唱団
平和に関わる行事にも積極的に参加



CLOSE UP 01
NPO法人心豊かな家庭環境をつくる広島21
子どもたちに感動を与え、
音楽の楽しさを伝える



CLOSE UP 03
ダイヤモンドズ
ダイヤモンドのように、いつまでも輝き続ける
自分たちが楽しんで活動することで、笑顔がうまれる



子どもたちに感動を与え、 音楽の楽しさを伝える

「こども夢コンサート」に出演したエリザベト音楽大学の皆さん（平成30年）

CLOSE
UP

音楽で笑顔あふれるまちづくり

芸術の秋。子どもたちを心豊かに、高齢者を笑顔に、音楽を通して平和を伝えるなど、さまざまな活動をしている団体を紹介します。

NPO法人心豊かな家庭環境をつくる広島21（NPOこころ21） <http://www.tsure20.co.jp/kokoro21.html>

大学と協力し子どものためのコンサートを開催

家庭や地域社会が抱えるいろいろな課題に取り組み、みんなで支えあう地域づくりを目指し「NPO法人心豊かな家庭環境をつくる広島21」は平成18年に設立されました。さまざまな取り組みがある中で、平成25年から、情緒形成期の子どもたちに感動を与え、音楽の楽しさを伝える活動「子どものための音楽プロジェクト」をエリザベト音楽大学と広島文化学園大学の協力のもと実施しています。



▲ NPOこころ21の皆さん
（右から2人が副理事長の野坂忠守さん）

食文化の改善など子どもを中心としたさまざまなプロジェクトの中で、「保育園・幼稚園へ本物のクラシック音楽を届けたい」「出前コンサートをやろう」などの意見が浮上している時、安

東幼稚園（広島市安佐南区）が閉園するにあたって、思い出となるイベントをしたいという話があったそうです。そこで、エリザベト音楽大学に協力を依頼したところ、大学側は快諾。平成25年2月に「こども夢コンサート」と題し、教員と学生・卒業生の総勢16人が、クラシック音楽を中心に、歌や管弦楽器、打楽器で、園児や保護者など約120人を前に10曲を演奏しました。

「静かに演奏を聴く園児の目がキラキラと輝き、終わった後に力いっぱいの手拍子を送ってくれる。その姿を見た瞬間、やって良かった、閉園にあたり最高のプレゼントをすることができた、そう感じましたね」と語るのは、副理事長の野坂忠守さん。正直な子どもたちの表情と反応は、演奏者にとっても貴重な体験となったそうです。

未来を見据えて10年計画で芸術音楽の普及、 人材の育成も

公演後、話を聞いた他の園からも同様のコンサートを希望する話があるようになりました。子どもの成長に欠かせない、芸術的な



▲ みゆき保育園（広島市西区）での「こども音楽体験教室」の様子（令和元年10月）

感性を音楽で培っていくためにも、このコンサートの必要性を感じ、広島文化学園大学・音楽学科にも協力を依頼。2大学のサポートを受けながら、年間7、8園の出張演奏を目標に実施していました。さらには平成25年に、10年計画で広島市内の市立保育園・幼稚園の100近い園を全て回ることを目標に定め、その後は1年間に9園ほどを訪問。令和2年までに、エリザベト音楽大学は延べ35カ所、広島文化学園大学は延べ25カ所の60カ所の訪問が決まっています。

コンサートは基本的に学生が中心となって実施しており、場合によっては大学のOB・OGが参加することもあります。エリザベト音楽大学は、楽器の演奏や歌に加えて、ミュージカルとオペラの要素を取り入れた音楽劇を、広島文化学園大学は、いろいろな楽器の演奏、その楽器について園児でもわかりやすく教えるなど、それぞれが工夫しています。コンサート前は、NPOこころ21のスタッフと大学の参加者が事前に話し合い企画構成。園に配布するプログラムも、大学側が準備することで学生のマネジメント能力の育成にもなり、子どもたちに分かりやすく教える指導者としての能力向上に役立っているそうです。

「当初は試行錯誤でしたが、回を重ね、園児たちの真剣なまなざしを見ると、理念は間違っていなかったことを実感しています。運営面で検討する点もありますが、今後も可能な限り継続して、最終的には広島市内の市立保育園・幼稚園を全て回れるよう積み重ねていきたいですね」と野坂さん。課題はあるものの、園児たちの輝く目を見るたびに、コンサートを開く意義を再認識しているそうです。

地元の大学と共同で行う文化的社会貢献、芸術音楽の普及、音楽文化を担う人材育成など、コンサートの背景にさまざまな理念を掲げ活動するNPOこころ21の存在は、大きな役割をもっていると感じました。



▲ 広島文化学園大学の教員とOB・OGの皆さん

らしっく contents

Vol.55
晩稲号
2019.11

特集

01 音楽で笑顔あふれるまちづくり

▶ NPO法人心豊かな家庭環境をつくる広島21



みゆき保育園
（広島市西区）での
「こども音楽体験教室」
の様子
（令和元年10月）

▶ 広島合唱同好会



広島県民文化
センターでの
練習の様子

▶ ダイヤモンズ



広島シーサイド病院
（広島市南区）での
活動の様子
（令和元年5月）

05 らしっくレポート ひろ記者が行く

▶ 横川にカンパイ！ 街と人をつなぐ『音楽』の架け橋

らしっくコラム

▶ 地域と人をつなぐ音楽
エリザベト音楽大学 音楽文化学科 学科長 教授
壬生千恵子

06 ようこそ！公民館へ

▶ 安佐北区内公民館

07 人材バンク 名人 宝人 達人

▶ 吉島フォークダンスサークル
▶ 村岡 啓子さん

09 Hm助成支援団体のご紹介

▶ アカハイ・ホヌ
▶ 一般社団法人まちづくり四日市役場
▶ かわなみサイクリングロード実行委員会

11 情報の森

15 プラザ通信

設立65年の合唱団 平和に関わる行事にも積極的に参加

広島合唱同好会

県内有数の長い歴史をもつ混声合唱団 20代から80代の幅広い世代で構成

昭和29年、NHK広島放送合唱団のサポートで設立されたのが「広島合唱同好会」です。65年経った今も、広島市を拠点に積極的な活動を続けています。

「現在、広島県内には学校関係まで含めるとアマチュア合唱団がおおよそ250～300団体くらいありますが、私たちは県内有数の長い歴史をもつ混声合唱団です。昭和32年から定期演奏会を始め、昭和41年からは毎年欠かさずに開いています」と代表であり指揮を務める大上義輝さん。大上さんは昭和40年から同会に加わったそうです。

現在、メンバーは25歳から87歳まで、男女合わせて約60人が在籍。ソプラノ、アルト、テノール、バスの4つのパートに分かれて、歌声を披露しています。毎週月曜日の夜に広島県民文化センターで練習しており、広島市内はもちろんのこと、近隣の市町や山口県周南市からも駆けつけるメンバーもいます。

歌って楽しく、聴いて楽しく 磨き抜かれた歌声を届ける

皆さんの磨き抜いた歌声を披露する場は、年に一度の大舞台、毎年5月に開催する定期演奏会に加えて、平和に関わる行事にも積極的に参加。8月6日の平和記念式典とハノーバール庭園南側で行われる平和の鐘祈念式典、12月に行われる「第九ひろしま」には昭和60年の第1回から毎年参加しています。



▲ ハノーバール庭園の平和の鐘



▲ 広島県民文化センターでの練習の様子

「私たちは、歌って楽しく、聴いて楽しく、をキャッチフレーズに、日々練習に励んでいます。以前は、定期演奏会で宗教音楽など、一見すると難しい歌も歌っていましたが、時代の変化とともに聴く側の多様性にも柔軟に応じ、最近では童謡や唱歌、アニメソングや歌謡曲などさまざまなジャンルを歌い、興味をもってもらっています。1回の定期演奏会につき、30曲近く歌うので、メンバーは覚えるのが大変だと思いますが、皆やりがいをもって参加しており、練習への出席率も毎回80%以上です」。



▲ 代表の大上義輝さん

定期演奏会のプログラムに国際交流ステージを組み込むのも特長のひとつ。広島在住の留学生の方々を中心に、母国の歌や踊り等を披露してもらい、聴く人に異文化を感じてもらっています。これも、国際平和都市に存在する合唱団ならではの取り組みです。

また、昭和60年から平成22年までは、数年おきにヨーロッパを中心に海外公演にも出掛けるなど、国際的にもその存在は知られています。

「約2時間の練習で大きな声を出して歌うことで日頃のストレスを発散できるのも、皆が感じる魅力のひとつではないかと思います。また、自分たちの歌声で聴く人を魅了し、歌い終わった後会場いっぱいに響くあたたかい拍手は、私たちにとっての大きな原動力になります。会が継続していくためには今後、世代交代が大きな課題になりますが、乗り越えてこれからも、この歌声を響かせたいですね」最後に大上さんはこう語ってくれました。

長年、積極的に活動をしている皆さんの歌声は、これからも広島に響き渡り多くの人を魅了することでしょう。



▲ 令和元年8月6日の平和記念式典に参加した皆さん

ダイヤモンドのように、いつまでも輝き続ける 自分たちが楽しんで活動することで、笑顔がうまれる

ダイヤモンド

<https://kenfuku12.jimdofree.com/>

さまざまな得意分野を持った 有志で結成された演芸ボランティア

広島県高齢者健康福祉大学の第12期生の有志20人が、平成16年に演芸ボランティア「ダイヤモンド」を立ち上げました。メンバーは、それぞれが得意とする歌や踊り、大道芸などに磨きをかけて、お年寄りも参加できるプログラムを構成。県内各地の高齢者施設を訪問して活動しています。

「広島県高齢者健康福祉大学修了前に、大学校の中のサークル「童謡を歌う会」と「フラダンス同好会」に所属していた仲間から、「このまま別れるのはもったいない」という声があがり、それなら、それぞれの得意分野を活かして、高齢者の方々に喜んでもらう演芸のボランティアをしては、と考え始めたのがダイヤモンドです」と代表の金輪忠雄さんは語ります。

音楽と多彩なプログラムで 参加者全員で楽しむ

団体名のダイヤモンドは、自分たちがいつまでも輝き続けたい、との願いを込めてネーミング。現在メンバーは、男性3人、女性10人の13人。平均年齢は77歳ですが、皆さん大きな声を出して歌ったり、踊ったりとパワフルで、年齢を感じさせません。月2回の練習に加えて、月1回、広島市内はもちろんのこと、県内各地の老人福祉施設やいきいきサロンなどを訪問しています。当初は、自分たちで施設等に売り込みをしていたそうですが、今では皆さんの活動が評判を呼び、口コミでその存在が広まって、通算の活動回数は15年間で211回にもなっています。

訪問時のプログラムは、ダイヤモンドのテーマソングを歌ってスタート。その後、誰もが知っている童謡を季節によって選曲し、参



▲ メンバーの皆さん



▲ さくら会館（安芸郡府中町）での活動の様子（令和元年10月）

加者皆で歌います。親しみやすい歌を皆で一緒に歌うことで一体感が生まれて緊張がほぐれ、笑顔になり、次第に大きな声で歌えるようになるそうです。

「メンバー全員が、人前に入る事は大好きで、訪れた先の雰囲気一つにまとめる事を大切にしています。まずはテーマソングとして「ラバウル小唄」のメロディに自分たちについて紹介した歌詞を乗せて歌って盛り上げて、そして一緒に童謡を歌います。こうすることで、皆さんに喜んでもらうと同時に、自分たちも、今日も楽しくやるぞ!といった気持ちになるんです」と金輪さん。まずは自分たちが楽しまないと、参加者にも楽しんでもらえない、そのような気持ちで毎回臨んでいるそうです。

プログラムは、他にもフラダンスやマジックコーナー、玄米ダンベル体操などおよそ1時間。最後もまた、ダイヤモンドの終わりのテーマを皆で一緒に歌って終わります。

「現在メンバーをサポートしてくれる人が1人いますが、基本ダイヤモンドのメンバーは今の13人です。あと何年活動を続けることができるか分かりませんが、続けられる限りは、活動していきたいと思っています」。幾つになっても、ダイヤモンドのように輝き続ける姿に、皆さんの生きがい、やりがいを感じ、それが見る人にも伝わってたくさんの笑顔がうまれているのだと感じました。



▲ 広島原爆養護ホーム倉掛のぞみ園（広島市安佐北区）での活動の様子（平成31年4月）